

## 『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

### 平成 19 年度派遣報告書

——ケニア・ナイロビ大学、スワヒリ語、H20. 2. 7-H20. 3. 31——

平成 17 年入学  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
博士課程 3 回生  
井上 真悠子

#### 研究テーマ

現在、アフリカの各地で観光化が進んでおり、アフリカの多くの国家にとって観光産業は主要な収入源となっている。そして、観光客が集まる都市部に生活する人々にとって、観光に関わる仕事は身近な職種となってきている。その仕事には、ある程度のスキルが必要な観光オフィスの事務から、路上でいくばくかの土産物を手売りするといった比較的参入障壁の低いものまで、様々なものがある。そして、様々な背景をもった人々が、それぞれの状況に見合ったやりかたを選択しながら観光業に携わっているのである。タンザニアの観光地・ザンジバル島には、多くの観光業従事者がタンザニア大陸部から働きに来ている。特に土産物業に関わる人たちの多くは大陸部から移動してきており、その中でも土産物絵画をつくっている画家の多くは、ザンジバル島だけでなく各地の販売業者との交流を活用して、ケニア・タンザニア内の複数の観光地を短期的・長期的に移動しながら仕事をしている。そこで私は、このような土産物を取りまく人々の労働形態と移動の実態を切り口として、これまではひとつの観光地や国家の問題として捉えられがちだった観光というテーマを、東アフリカの広域をカバーする地域の問題として把握したいと考えている。そして、現代アフリカ社会における観光産業の位置づけを明らかにすることによって、観光地や国家を越えた地域における観光政策のありかたを考えていきたい。

#### 研修言語の概要

スワヒリ語は、東アフリカ、特にケニア・タンザニアで広く使われている言語である。ウガンダ・ルワンダ・コンゴの一部地域でも通用する。文法的にはバントゥ語系統であるが、アラビア語から受けた影響も大きく、アラビア語起源の語彙も多く存在している。ケニア・タンザニアには多数の民族が存在しており、それぞれの民族語を母語として使用しているが、スワヒリ語はそれら多民族間の共通言語として活用されている。

#### 語学研修の内容について

この研修では、文法・慣用表現・婉曲表現を身につけることを主たる目的とした。スワヒリ語には複雑な文法形態があり、その中でも最も特徴的なものが「名詞クラス」である。これは、スワヒリ語のすべての名詞が 12 個の名詞クラスの中に分類され、その名詞のクラスに対応した接頭辞が、後に続く形容詞等の頭につく（コンコードする）というものである。この名詞クラスのコンコードはスワヒリ語の特徴でありながら、複雑であるため、母語話者においてもしばしば誤ってしまうほど難しい。また、ス

ワヒリ語には敬語というものはないが、様々な婉曲表現や丁寧な言い表しかたがあり、一つの物事を言い表す際にもいくつもの表現のしかたがある。今回の研修では、文法に関しては特にコンコードに焦点を絞りながら体系的な学習をおこない、それらを用いた文章作成に慣れるために毎回宿題として小論文を作成し、添削してもらっていた。また、会話練習を通して、様々な婉曲表現・慣用表現についても学習をおこなった。正しい文法やコンコード、婉曲表現・慣用表現を使えるようになることは、スワヒリ語を用いた参与観察や聞き取り調査、報告書作成をおこなう上で必要不可欠であると考えられている。授業はスワヒリ語でおこなわれ、マンツーマン形式で一人の先生についてもらった。受講期間は約40日間であり、合計60時間を受講した。

### 研修期間中に印象に残った体験や経験

私の先生はケニア西部のルオという民族出身の28歳の男性だった。現在はナイロビに暮らしているが、幼い頃はルオの村で暮らしていたらしく、授業中にときどき村の生活のことを話してくれるのを興味深く聞いていた。ナイロビに住む若者の多くは、欧米のファッションやライフスタイルに憧れ、真似ようとしている。そのような欧米文化中心のナイロビ暮らしの中でも、田舎での生活や伝統行事、礼節、考え方などを時々思い出しては、「悪くないのかもしれない」と思っている先生が印象的だった。確かに、「発展途上国」と言われるアフリカの国に生まれたからといって、「先進国」の文化を見習うべきものとし、自分たちの文化を時代遅れなものとして捉えなければならぬいいわれなどないだろう。先生の話聞いて、新しいものも昔からあるものも、それぞれ同じ価値を持った「選択肢の一つ」として、気負いなく主体的に選び取れる世の中であって欲しいと思った。

### 目標の達成度や反省点について

これまで独学では理解しにくかったスワヒリ語の文法を体系的に理解することができ、日常会話において文法（特にコンコード）を正しく使用することに加え、文章作成もある程度できるようになった。また、これまで日常会話の中ではなかなか身につけなかった婉曲表現・慣用表現に関しても、ひとつひとつ丁寧に深い意味を教えてもらうことができた。しかしコンコードは何度も練習を重ね、使い慣れないと間違いやすいため、今後も継続的な学習が必要である。また、婉曲表現・慣用表現には、私がこの研修で習うことができた表現よりもはるかにたくさんの表現方法が存在していると思われる。語彙力に関しても、まだ学術的な議論を展開するには不十分である。そのため、この研修の成果を足がかりとして、今後もスワヒリ語を使う際には正しい文法や丁寧な表現を意識的に使うよう心がけ、実践を繰り返すことによって、さらなる表現力の向上を目指したいと考えている。



先生と学校構内で



板書中心の文法の授業



会話練習もまじえた授業